

令和4年度全国学力・学習状況調査 結果分析

～国語～

○分析

・成果 （平均と比較して特に良かった単元・分野・資質・能力など）

- ・平均正答率71％であり、県内（68％）、全国（69％）よりも高い。
- ・内容項目ごとの平均正答率を県内、全国と比較した結果、やや差が見られた項目は以下の通り。
「言葉の特徴や使い方に関する事項」78.5％ 県内より6.7、全国より6.3ポイント高い
「情報の扱い方に関する事項」「書くこと」50％ 県内より4.7、全国より3.5ポイント高い
- ・問題形式ごとの平均正答率を県内、全国と比較すると、記述式が61.1％と県内より3.4、全国より3.7ポイント高い。

→上記の結果に加え、記述式問題の無解答率も県内や全国との目立った差がなくなったことから、昨年度改善策として挙げた書く活動を行ってきた成果が見られたのではないだろうか。教材文の読み取りが終わった後に、条件作文に取り組みせることを引き続き行い、書く力や記述に対応する力を伸ばしていきたい。

→「言葉の特徴や使い方に関する事項」は漢字、文法、語句の意味、表現技法など覚える必要のある事項である。週末課題や小テストに向けての学習に日々継続して取り組ませることで、定着を図りたい。

・課題 （平均と比較して同程度または低かった単元・分野・資質・能力など）

- ・内容項目ごとの平均正答率を県内、全国と比較した結果、やや差が見られた項目は以下の通り。
「我が国の言語文化に関する事項」66.7％ 県内より1.2、全国より3.5ポイント低い
「話すこと・聞くこと」62.5％ 県内より1.5、全国より1.4ポイント低い

→上記に関係する問題の解答類型から、問題文中の言葉が理解できなかったことが不正解の原因と考える。

例：問題番号1ー

『呼びかけたり問いかけたりする表現にしてみてもはどうでしょうか』という田中さんからの助言を受け、『最近、ふだんの生活がこれまでとは違うものになってきていると感じます。』という部分に言葉を加えて直すことにしました。あなたならどう直しますか。』



・改善策

- ・生徒にとって分かりやすい言葉で説明するだけでなく、抽象度の高い言葉も蓄えさせる必要がある。
- ・読む学習において、書かれている言葉を具体的に説明させたり、具体的な内容をまとめて抽象化させたりする活動を意識的に取り入れていく。

～数学～

○分析

・成果 （平均と比較して特に良かった単元・分野・資質・能力など）

- ・領域別では、4領域すべてで正答率が全国平均を1～6ポイント上回った。中でも、関数領域における「与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る」はとくに正答率が高かった（全国 54.6%，本校 75.0%）。
- ・評価の観点で見ると、「知識・技能」が高く（全国 59.9%，本校 64.8%）、「思考・判断・表現」も全国と同程度の水準である（全国 36.2%，本校 38.3%）。
- ・質問紙を見ると、「数学の勉強は好き」「数学の勉強は大切」という質問に対して肯定的な回答をしている生徒が多い（好き…70.1%，大切…91.7%）。

・課題 （平均と比較して同程度または低かった単元・分野・資質・能力など）

- ・記述式の問題では、全国平均こそ上回っているものの、正答率自体は高くない。「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができる」「データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」など、説明の力を高める必要がある。
- ・「知識・技能」の領域において、全国平均と比べて正答率が10ポイント以上低い問題が2問（「数と式」素因数分解、「関数」変化の割合）あった。いずれも領域・単元において基本的な部分であるが、定着が十分でないと上の学年での学習内容に影響を及ぼすことがあるため、確実に技能を習得できるように工夫する必要がある。
- ・質問紙を見ると、「数学の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できないか考えますか」に対して否定的な回答が62.5%と比較的高い数値である。授業と普段の学習を切り離すのではなく、関わりの深い部分については授業で取り扱うようにして、生徒が思考・判断・表現の力を付けられるようにする。



・改善策

- ①具体物を実際に操作したり、ICTを効果的に活用したりすることを通して、理解できたと実感できる活動を取り入れる。
- ②既習事項の振り返りを行う。既習事項と未知の問題の関連を考えさせる。
- ③新たな問題に対しても、試行錯誤しながら粘り強く解決しようとする態度を養う。
- ④1人では解決できない問題をアドバイスし合える雰囲気をつくる。
- ⑤小テストや確認テストを定期的実施して、基本事項の定着と応用問題での説明のスキルを身に付けさせる。
- ⑥活用の場面では、実生活に関する問題を取り上げたり、体験的な活動を取り入れたりするなどして、数学的な見方や考え方を養う。

～理科～

○分析

・成果（平均と比較して特に良かった単元・分野・資質・能力など）

・平均正答率 48%であり、県内（49%）、全国（49%）と比較しても遜色ない。平均正答率を県内平均と比較した結果、有意差が見られた項目は以下の通り。

【物理分野】〔5〕（1）おもりに働く重力とつり合う力の矢印を選択し、その力について説明する（+9.7 ポイント）【化学分野】〔3〕（1）分子のモデルで表した図を基に、水素の燃焼を化学反応式で表す（+7.4 ポイント）〔7〕（1）液体が気体に状態変化することによって温度が下がる身近な現象を選択する（+9.9 ポイント）【生物分野】〔8〕（2）予想や仮説と異なる実験の結果が出る場合、その意味することや考えられる可能性について考え、実験の操作や条件制御の不備の可能性を指摘する（+7.4 ポイント）〔4〕（2）脊椎動物には骨格のつくりに通点があることから、カラスの関節 A に対応するヒトとカエルのあしの関節を選択する（+17.7 ポイント）【地学分野】〔2〕（1）観測した気圧と天気図の気圧が異なる理由を空気の柱の長さで説明する際、適切な長さの変化を選択する（+12.5 ポイント）

・課題（平均と比較して同程度または低かった単元・分野・資質・能力など）

【物理分野】〔1〕（1）日常生活の中で、物体が静電気を帯びる現象を選択する（-6.7 ポイント）、〔5〕（3）考察の妥当性を高めるために、測定範囲と刻み幅をどのように調整して測定点を増やすかを説明する（-5.8 ポイント）【化学分野】〔3〕（3）水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する（-20.6 ポイント）、〔3〕（2）水素を燃料として使うしくみの例の水の質量の変化について、適切なものを選択する（-6.0 ポイント）【生物分野】〔8〕（3）生物 X が昆虫類かどうかアリと比較しながら、観点と基準を明確にして判断する（-14.2 ポイント）〔4〕（1）ダイオウグソクムシとダンゴムシのあしの様子が異なることについて、生活場所や移動の仕方と関連付け、その理由を説明する（-7.8 ポイント）【地学分野】〔2〕（2）気圧、気温、湿度の変化をグラフから読み取り、雲の種類の変化と関連付けて、適切な天気図を選択する（-15.8 ポイント）〔6〕（3）東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する（-13.4 ポイント）〔6〕（2）陸上の B 地点で古生代のサンゴの化石が観察されることについて、垂直方向の変動だけで推論した他者の考察を検討し、水平方向の変動も踏まえた推論が必要であることを指摘する（-6.1 ポイント）



・改善策

- ・具体物を実際に操作したり、ICT を効果的に活用したりすることを通して、理解できたと実感できる活動を取り入れる。
- ・既習事項の振り返りを行う。既習事項と未知の問題の関連を考えさせる。新たな問題に対しても、試行錯誤しながら粘り強く解決しようとする態度を養う。
- ・小テストや確認テストを定期的の実施して、基本事項の定着と応用問題での説明のスキルを身に付けさせる。

～質問紙～

○分析 []内は肯定的な意見の割合

・成果 (平均と比較して特に良かった単元・分野・資質・能力など)

- ・毎日、同じくらいの時刻に寝ている。 [95.8 県 83.4 全国 79.9]
- ・困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できる。
[83.4 県 78.8 全国 66.6]
- ・友達と協力するのは楽しい。 [100 県 95.2 全国 93.7]
- ・学級活動で話し合い、互いの意見のよさを活かして解決方法を決めている。
[95.8 県 84.8 全国 76.8]
- ・国語の勉強は大切だ。 [100 県 93.6 全国 93.2]
- ・国語の授業内容はよくわかりますか。 [95.9 県 84.8 全国 81.2]
- ・数学の授業は好きですか。 [70.9 県 58.6 全国 58.1]
- ・数学の授業で、あきらめずにいろいろな方法を考える。 [91.7 県 79.1 全国 75.2]

・課題 (平均と比較して同程度または低かった単元・分野・資質・能力など)

- ・1,2年生のときの授業でPC・タブレットを活用した。 [50.0 県 87.8 全国 79.6]
- ・学校で、自分の意見を発表する場面でPC・タブレットを活用している。
[8.3 県 45.5 全国 79.6]
- ・理科の勉強は好きだ。 [29.3 県 66.5 全国 35.3]
- ・理科の授業の内容はよくわかる。 [41.7 県 77.4 全国 75.2]
- ・理科の授業では、自分の予想をもとに観察や実験の計画を立てている。
[20.9 県 73.5 全国 62.5]
- ・理科の授業で、観察や実験をもとに考察している。 [29.1 県 83.5 全国 78.9]



・改善策

- ・生活習慣や学習習慣全般的に、県や全国の平均値と同じものがほとんどだった。おおまかにはこのまま継続していく。
- ・タブレットはかなり活用しているように見えるが、発表や意見交換の場面での活用を実感している生徒が少ないようだ。1、2年次には基本は学校保管だったため、自分で自由に使える時間が少なかったか？効果的な場面では積極的に活用させていく

その他

- ・新聞を読んでいる生徒が少なく、全く読まない生徒が91.7%いる。